

経営改善及び連携・活用に関する取組評価

(令和5(2023)年度)

法人名(団体名)	公益財団法人 川崎市公園緑地協会	所管課	建設緑政局緑政部みどりの管理課
----------	------------------	-----	-----------------

経営改善及び連携・活用に関する方針

法人の概要	<p>1 法人の事業概要 【公益目的事業】 (1) 緑の街づくりの推進及び普及啓発に関する事業 (2) 公園緑地の運営及び健全な利用促進に関する事業 【公益目的事業の推進に資するために実施する収益事業等】 駐車場及び売店等の経営</p> <p>2 法人の設立目的 緑の保全と緑豊かな街づくりの推進及び公園緑地の円滑な運営を通して市民に健全な利用の促進、潤いと安らぎのある街づくりを行うことによる地域社会の健全な発展への寄与</p> <p>3 法人のミッション (1) 民有地の緑の保全及び緑化の普及啓発と市民の緑化意識の向上、市民による緑の街づくりの推進 (2) 緑のボランティアセンター機能としての、緑のボランティアの育成、活動支援の充実 (3) 公園緑地施設等の円滑な運営と健全な利用の増進 (4) 行政との協働により、市民の窓口となり市民ニーズを踏まえた多様な事業展開ができる緑の情報発信基地としての機能を果たし、緑豊かな潤いと安らぎのある街づくりに寄与すること</p>		
本市施策における法人の役割	<p>市の緑地等に関する事業及び民有地の緑化に関する事業の推進に協力し、公園緑地の円滑な運営及び健全な利用の促進並びに市民の緑化意識の向上を図ることによって緑豊かな潤いと安らぎのあるまちづくりに寄与するとともに、ボランティアセンターとしての機能を付加することで、市民活動拠点として充実させること</p> <ul style="list-style-type: none"> ・緑のボランティア育成及び持続的な活動の支援 ・民有地に対する助成事業を行い、緑の保全、緑化の推進及び緑化意識の向上 ・公園緑地施設等の管理運営 		
法人の取組と関連する市の計画	市総合計画上関連する政策等	政策	施策
		政策3-3 緑と水の豊かな環境をつくりだす	施策3-3-1 協働の取組による緑の創出と育成
	関連する市の分野別計画	川崎市緑の基本計画【H30～R9】	
現状と課題	<p>【現状】 「川崎市緑の基本計画」に基づき、市民との協働による都市緑化の推進と緑のボランティア活動支援に取り組み、各種講座、コンクール、イベント等を実施しています。また、公益目的事業の推進、公益財団法人としての自立的な経営に向けて、事業の簡素化、効率化、収益事業の拡充、組織再編等を図り経費削減に努めています。</p> <p>【課題】 協会は、定款記載の公益財団法人としての目的を達成すべく緑に関する事業を円滑に実施する法人運営をしていきたいと考えています。そのために緑のボランティアセンターとして現在継続している緑のボランティアの育成と支援を行う活動拠点を中心とした事業運営を推進し、多様な主体が参画するグリーンコミュニティの形成を図ることが必要であると考えています。また、等々力緑地再編整備事業の影響を踏まえ、協会自主財源の主である収益事業の減収を見据えて、安定した事業収益の確保と協会事業運営が今後の課題であると考えています。</p>		
取組の方向性	<p>(1) 経営改善項目 等々力緑地再編整備事業の影響による事業収益の減収を逓減させるため、自販機の増設による収益事業の拡充や等々力陸上競技場を主担当としている職員の人員配置等について調整を行い経営改善に向けて、事業の簡素化・効率化を図ります。</p> <p>(2) 連携・活用項目 「川崎市緑の基本計画」における各施策について、これまでの取組の継続に加えて、以下の観点を踏まえ、法人の役割を確認しながら連携・活用します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・緑のパートナーとして多様な主体との連携、促進を図り、「緑育」という視点で、特に次世代を担う子供たちに対する活動支援 ・緑の空間の持続的な保全・創出・育成という観点から、緑化助成制度の更なる普及と充実 ・グリーンコミュニティ形成の観点から、ボランティアセンター機能の活用と身近な公園における多様な主体の参加による取組を踏まえた地域コミュニティ形成、柔軟な利活用 		

本市が法人に求める経営改善及び連携・活用に関する取組

4カ年計画の目標

○地域社会の健全な発展に寄与するため、緑の保全と緑豊かな街づくりの推進及び公園緑地の円滑な運営を通して市民に健全な利用の促進を図り、潤いと安らぎのある街づくりを行います。
 ○「緑化推進・普及啓発事業」「緑のボランティア事業(緑のボランティアセンター運営事業)」「公園緑地の運営及び健全な利用促進に関する事業」の3つを柱に、川崎市の緑の保全と緑豊かな街づくりを推進し、法人を市民等の緑の活動支援や育成、普及啓発のためのボランティアセンターとしての機能を有する緑の拠点として位置づけ、令和6年度の都市緑化フェアに向けた連携を図りつつ、緑に関する事業運営を推進拡充していきます。
 ○等々力緑地再編整備事業による影響を踏まえ、経常収支比率の改善及び正味財産額の通減抑制に向けて、収益事業の見直しを実施し自己収入の確保に努めるとともに等々力陸上競技場の職員の人員配置等について調整を行い、効率的かつ安定的な業務を実施できるよう協議、調整をしていきます。また、今後の事業運営のあり方について検討を行います。

1. 本市施策推進に向けた事業取組

取組No.	事業名	指標	現状値 (令和3 2021)年度)	目標値 (令和5 2023)年度)	実績値 (令和5 2023)年度)	単位	達成度 (※1)	本市による評価 ・達成状況 (※2) ・費用対効果 (※3)	今後の取組の方向性 (※4)
①	緑化推進・普及啓発事業	ホームページアクセス回数	24,722	15,300	13,367	回	c	C	II
		緑化推進事業等助成件数	1,443	1,115	1,142	件	a		
		事業別の行政サービスコスト	本市財政支出 (直接事業費)	48,666 (51,031)	52,729 (55,800)	51,028 (51,490)	千円	1)	
②	緑のボランティア事業(緑のボランティアセンター運営事業)	各種講座受講者数	2,113	3,850	4,284	人	a	B	II
		緑の人材バンク新規登録者数	13	16	24	人	a		
		緑の活動団体新規登録数	6	13	8	団体	b		
		事業別の行政サービスコスト	本市財政支出 (直接事業費)	51,290 (67,850)	51,857 (71,000)	52,784 (68,213)	千円	2)	
③	公園緑地の運営及び健全な利用促進に関する事業	各種イベント等参加者満足度	94	96	99	%	a	B	II
		ばら苑来苑者数	68,145	81,000	68,824	人	b		
		事業別の行政サービスコスト	本市財政支出 (直接事業費)	194,596 (187,525)	72,080 (75,080)	80,055 (98,038)	千円	3)	

2. 経営健全化に向けた取組

取組No.	項目名	指標	現状値 (令和3 2021)年度)	目標値 (令和5 2023)年度)	実績値 (令和5 2023)年度)	単位	達成度	本市による評価 ・達成状況	今後の取組の方向性
①	運営の自立性の向上	経常収支比率	106.4	84.2	85.2	%	a	A	II
		正味財産額の推移	562,932	517,208	569,325	千円	a		

3. 業務・組織に関する取組

取組No.	項目名	指標	現状値 (令和3 2021)年度)	目標値 (令和5 2023)年度)	実績値 (令和5 2023)年度)	単位	達成度	本市による評価 ・達成状況	今後の取組の方向性
①	効率的・安定的な執行体制の構築	常勤役職員の人数	21	17	17	人	a	A	II

(※1)【 a. 目標値以上、b. 現状値以上～目標値未満、c. 目標達成率60%以上～現状値未満、d. 目標達成率60%未満】

(行政サービスコストに対する達成度については、1. 実績値が目標値の100%未満、2. 実績値が目標値の100%以上～110%未満、3. 実績値が目標値の110%以上～120%未満、4. 実績値が120%以上)

(※2)【A. 目標を達成した、B. ほぼ目標を達成した、C. 目標未達成のものがあるが一定の成果があった、D. 現状を下回るものが多くあった、E. 現状を大幅に下回った】

(※3)【(1). 十分である、(2). 概ね十分である、(3). やや不十分である、(4). 不十分である】

(※4)【 I. 現状のまま取組を継続、II. 目標の見直し又は取組の改善を行い取組を継続、III. 状況の変化により取組を中止】



法人及び本市による総括

【令和4(2022)年度取組評価における本市の総括コメントに対する法人の受止めと対応】

令和5年度は、広報手段として各種紙媒体の直接配布などを継続させながら、ホームページ、フェイスブックなどの電子媒体を活用し、幅広い周知を行い緑化推進・普及啓発事業向上に努めました。また、協会の全ての講座の周知と申込み等において二次元コードの活用等を行い、講座受講者数の確保と利便性向上に取組みました。

令和6年10月から開催される「全国都市緑化かわさきフェア」において緑のボランティアと市内の小中学生による市民協働花育事業への取組を開始しました。また、今後の協会運営と事業再編に向けて所管局と情報の共有を図り、持続可能な組織体制の構築に向けた取組を開始しました。

今後も協会が持続的に継続するためには、これまでの役割にとどまらず、みどり行政をとりまく環境変化に対応した組織になる必要があります。そのための体制づくりのために、既存事業の見直しを含めた事業再編と新たな役割について、所管局と協議しました。

【令和5(2023)年度取組評価の結果を踏まえ、本市が今後法人に期待すること、対策の強化を望む部分など】

広報手段として各種紙媒体の直接配布などを継続させながら、ホームページ、フェイスブックなどの電子媒体を活用し、幅広い周知を行い緑化推進・普及啓発事業向上に努めたこと、また、協会の全ての講座の周知と申込み等において二次元コードの活用等を行い、講座受講者数の確保と利便性向上に取組んだことは評価します。

緑化フェアに向けては、協会が持つ、各種ボランティアとのネットワーク等も活かして、市民総参加型の緑化フェアの実現に向けての役割を期待します。

これまで、本市の公園等の管理運営は、地域住民等との「協働の取組」により支えられてきましたが、活動団体の高齢化等の課題を抱え、活動の持続性が危ぶまれています。そこで、本市では多くの市民の公園利用を促し、公園に親しんでもらい、新たな「協働の取組」の担い手確保に繋げる取組を進めています。

この取組を踏まえて、今後、「協働の取組」を持続的なものにするには、公園利用者を繋ぎ、まとめ、育てる、中間支援組織が不可欠であり、その担い手には、公園緑地協会やNPO法人その他団体などが想定されますが、公園緑地協会がこれまで培ってきた地域との繋がりが、みどりに関する技術的ノウハウはアドバンテージになると考えています。一方で公園の魅力発信、公園利用者間の活動や取組を連携させることなど、中間支援組織が果たすべき役割は多岐に渡り、これまでの公園緑地協会の活動の範囲を超えるものもあります。これら事業に対応するため、公園緑地協会には、体制の見直しや、意識の変革など、抜本的な改革を期待します。

法人名(団体名)	公益財団法人 川崎市公園緑地協会	所管課	建設緑政局緑政部みどりの管理課
----------	------------------	-----	-----------------

1. 本市施策推進に向けた事業取組①(令和5(2023)年度)

事業名	緑化推進・普及啓発事業
計 画 (Plan)	
現状	緑化推進・普及啓発事業等を広報する媒体として広報誌・チラシ・パンフレット・タウン紙等の発行からフェイスブックやホームページの活用まで幅広い広報活動を展開し、緑化推進・普及啓発事業(思い出記念樹・緑化助成金等)を周知することにより、地域の緑化と市民の緑化意識の高揚を図るとともに、花と緑あふれる潤いのある街づくりに努めています。
行動計画	広報誌・チラシ・パンフレット・タウン紙等の紙媒体からホームページなどの電子媒体を幅広く活用し、更にフェイスブック等により、リアルタイムに情報を提供、共有するとともに、広く市民に緑化推進・普及啓発事業(思い出記念樹・緑化助成金等)を周知し拡充することに努めます。
具体的な取組内容	<p>【指標1関連】</p> <p>ホームページやチラシなどへの二次元コードの活用を通じて、各種講座申込みの利便性を高めるとともに、見やすさを重視したデザインとし、ホームページ(スマートフォン対応型)の視認性を高めることにより、スマートフォン対応型のホームページの内容を充実させ利便性を更に追求します。また、フェイスブックを幅広く活用し、リアルタイムな情報発信の提供を行い、ホームページアクセス数増につなげます。さらに、令和6年10月から開催される「全国都市緑化かわさきフェア」に向けて、多彩な市民協働に関する動画配信の活用を検討いたします。</p> <p>【指標2関連】</p> <p>広報の手段として広報誌・チラシ・パンフレット・タウン誌などの活用を継続し、市や協会主催のイベント等で配布することで、協会の公益目的事業である緑化推進・普及啓発事業(思い出記念樹・生垣づくり・屋上・壁面緑化等)の周知を拡充し、各種助成件数の向上に努めます。</p>

実施結果 (Do)

本市施策推進に向けた活動実績	<p>【指標1関連】</p> <p>各種講座申込みやチラシなどへの二次元コードの活用を増やし、パソコンやスマートフォン対応型ホームページからの各種講座申込みにおける利便性の向上に努めました。また、スマートフォン対応型ホームページ内の文字の大きさや見出しの配置・色合い、フェイスブック内の写真の見せ方や全体の見やすさを重視したデザインとするなど、視認性を高めることにより、内容を充実させました。</p> <p>また、令和6年10月から開催される「全国都市緑化かわさきフェア」に向けてホームページでのイベント情報やフェイスブックの活用、フェアに関する動画配信など取組の検討を開始しました。</p> <p>【指標2関連】</p> <p>広報の手段として広報誌・チラシ・パンフレット・タウン誌などの活用を継続し、市や協会主催のイベントや講座等で紙媒体による直接配布を行うとともに、二次元コードを活用したWEB広報も充実させ、緑化推進、普及啓発に向けた取組を行いました。</p>
----------------	--

評価 (Check)

本市施策推進に関する指標			目標・実績	R3年度 (現状値)	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	単位
1	ホームページアクセス回数		目標値		15,200	15,300	15,400	15,500	回
	説明	協会ホームページアクセス回数	実績値	24,722	29,301	13,367			
2	緑化推進事業等助成件数		目標値		1,090	1,115	1,120	1,125	件
	説明	緑化推進事業等を目的に行う各種助成総件数(思い出記念樹・生垣づくり・駐車場緑化・屋上・壁面緑化)	実績値	1,443	1,270	1,142			

指標1 に対する達成度	C	a. 実績値が目標値以上 b. 実績値が現状値(個別設定値)以上～目標値未満 c. 実績値が目標値の60%以上～現状値(個別設定値)未満 d. 実績値が目標値の60%未満
指標2 に対する達成度	a	※個別設定値を設定している場合は指標の説明欄に記載

法人コメント(指標に対する達成度やその他の成果等について)

指標1については、チラシなどへの二次元コードの活用により、各種講座申込みにおける利便性を向上させるとともに、スマートフォン対応型のホームページの見やすさを重視したデザインとするなど内容を充実させる取組を行いました。令和5年度から始まった等々力緑地再編整備事業の影響が大きく、特に等々力陸上競技場管理からの撤退に伴う川崎フロンターレやスポーツ観戦情報、等々力緑地釣池の開場情報など施設に関する運営情報等の削除等により目標値を達成することができませんでした。

指標2については、「思い出記念樹」のチラシへの二次元コードの活用とチラシ等を市や協会主催のイベント、講座等で直接配布を行ったことなどにより、目標値を達成することができました。今後もWEB広報と直接配布を両輪として継続的に行ってまいります。

 本市による評価	達成状況	区分	区分選択の理由
		A. 目標を達成した B. ほぼ目標を達成した C. 目標未達成のものがあるが一定の成果があった D. 現状を下回るものが多くあった E. 現状を大幅に下回った	C ホームページアクセス数については、等々力緑地再編整備事業の影響が大きく実績値が目標値を下回ったものの、各種講座申込みやチラシなどへの二次元コードの活用を増やし、ホームページへのアクセスを容易にすること、スマートフォン対応型のホームページを見やすさを重視したデザインとするなど内容を充実させた取組に一定の成果があったため。また、緑化推進事業等助成件数についても関係各所への周知を積極的に行うとともに、二次元コードの活用を継続し、スマートフォン対応型ホームページの環境を整えた結果、実績値が目標値を上回り、緑化推進・普及啓発事業の振興に寄与したため。

行政サービスコスト			目標・実績	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	単位
1	事業別の行政サービスコスト		目標値		52,000 (55,600)	52,729 (55,800)	52,729 (55,800)	52,729 (55,800)	千円
	説明	本市財政支出(直接事業費)	実績値	48,666 (51,031)	52,729 (52,947)	51,028 (51,490)			

行政サービスコスト に対する達成度	1)	1). 実績値が目標値の100%未満 2). 実績値が目標値の100%以上～110%未満 3). 実績値が目標値の110%以上～120%未満 4). 実績値が目標値の120%以上
----------------------	-----------	--

法人コメント(行政サービスコストに対する達成度について)

緑化推進・普及啓発事業等を広報する媒体として、広報誌やチラシ及びWEBの活用等により「思い出記念樹」の贈呈など緑化推進・普及啓発に努めました。その他緑化助成事業である生垣づくりや屋上・壁面緑化等についても継続した周知拡充に努めました。

また、スマートフォンによるホームページの見やすさやフェイスブックの内容の充実、各種講座等の申込みなど二次元コードの活用を推進し、事業運営の効率化と経費削減に取組み、目標値の範囲内となりました。

 本市による評価	費用対効果 (「達成状況」と「行政サービスコストに対する達成度」等を踏まえ評価)	区分	区分選択の理由
		(1). 十分である (2). 概ね十分である (3). やや不十分である (4). 不十分である	(2) 施策推進に関する指標1の実績値が目標値を下回ったものの、指標2の実績値が目標値を上回り、緑化推進・普及啓発事業の振興に寄与したため。また、事業運営の効率化と経費削減に取り組み、行政サービスコストは目標値の範囲内となったため。

改善 (Action)

実施結果(Do)や評価(Check)を踏まえた今後の取組の方向性	方向性区分	方向性の具体的内容
	I. 現状のまま取組を継続 II. 目標の見直し又は取組の改善を行い、取組を継続 III. 状況の変化により取組を中止	II 緑化推進・普及啓発等を広報する媒体として広報誌・チラシ等の発行、配布及びWEBの活用は、今後も継続して行ってまいります。特にWEB広報の強化に取組みます。現在所管局と既存事業の見直しを進める中で、目標や取組の改善を行ってまいります。

法人名(団体名)	公益財団法人 川崎市公園緑地協会	所管課	建設緑政局緑政部みどりの管理課
----------	------------------	-----	-----------------

本市施策推進に向けた事業取組②(令和5(2023)年度)

事業名	緑のボランティア事業(緑のボランティアセンター運営事業)
計画(Plan)	
現状	グリーンコミュニティ形成に向け、緑のボランティアの育成と活動団体の支援を図り、応募方式等による各種講座・出前講座等を開催し、緑のボランティアの育成と技術向上を図るとともに、講座修了者に協会人材バンク(令和2年度206人)への登録と緑の活動団体(令和2年度268団体)新規登録を推進し、市民の緑化意識向上に努めています。
行動計画	緑のボランティア育成と活動支援を目的とした各種講座・出前講座等の内容の充実を図り、受講者数を増やすとともに、受講者の技術向上を推進します。そして講座修了者を協会人材バンクに登録し、各種イベントボランティアや各地域で活躍できる人材育成を行うことにより緑の活動団体の新規登録を増進し、市民の緑化意識向上に努めます。また、身近な公園等における、多様な主体の参加による取組を踏まえた地域コミュニティの形成を進めます。
具体的な取組内容	<p>【指標1関連】 各種講座(花と緑のまちづくり講座・里山ボランティア実践講座・花壇ボランティア実践講座・たねダンゴ実践講座・こども黄緑クラブ)の内容の充実と工夫を図り、受講者の増加に努めます。また、講座申込みについては、二次元コードの活用を増やし、スマートフォンによる申し込みの利便性を向上させ、若い世代や親子が参加しやすくなるよう工夫を図り、高齢者の方々にもわかりやすい案内となるように配慮し、効率的な事業運営に努めます。</p> <p>【指標2関連】 各種講座の内容を充実させることにより受講者数を増やし、講座(花と緑のまちづくり講座)期間中に人材バンク登録者に人材バンクの良さやお手伝いの内容等を紹介する時間を取るなど周知を図り、登録の促進に向けた働きかけを行い、講座修了者の人材バンクへの新規登録者数増に努めます。</p> <p>【指標3関連】 各区で開催されている公園愛護会や管理運営協議会の総会等に出席し、緑の活動団体の説明やPRを積極的に展開し、新規登録数増に努めます。また、ホームページやフェイスブックで緑の活動団体の紹介や登録方法、助成制度等の説明をアップし、リーフレットを作製し、市内公共施設等に配付して緑の活動団体新規登録への周知拡充に努めます。 公園愛護会や管理運営協議会の方々や直接的な交流を図り、協会が進める事業のPRと緑の活動団体の周知を行い、新規登録数増に繋げてまいります。また、市主催のイベントや協会事業の出前講座・活動支援等に人材バンクのボランティアを派遣する機会を増やし、現場での技術指導や経験を積むことにより、ボランティアのスキルアップと地域で活躍できる人材育成を図り、新規登録数増に繋がる取組に努めます。</p>

実施結果(Do)

本市施策推進に向けた活動実績	<p>【指標1関連】 令和5年度は、各種講座開催に向けてテキストの改訂、進め方の工夫、安全対策を講じるなど、受講者アンケートの結果を反映させることを継続して行い、講座の充実度を高めました。またコロナの影響がなくなり、学校関係の出前講座や活動支援の場が増え受講者数の増加に繋がりました。また、たねダンゴ実践講座において二次元コードによる講座申込みを行い、全ての講座で活用できるようになりました。 こども黄緑クラブでは、若い世代のご家族からの二次元コードによる申込みが95%以上ありました。</p> <p>【指標2関連】 今年度も継続して花と緑のまちづくり講座・里山ボランティア実践講座修了者を対象に協会人材バンクへの登録を働きかけました。講座内で、人材バンク登録者の先輩として人材バンクの必要性や楽しみ方などをお話する時間を作り登録への働きかけに努めました。</p> <p>【指標3関連】 公園を管理している町会など管理運営協議会や愛護会の合同連絡会の場に参加し、リーフレットの配布や緑の活動団体の紹介、登録の説明などを行うとともに、協会ホームページやフェイスブックを活用し、交流事業で28団体の訪問の様子などをアップするなど、継続して団体登録の増加に努めました。また、協会が実施している各種講座の中でも緑の活動団体の必要性をお話したり、リーフレットを配布して説明を行うなど団体新規登録へ向けた取組を実施しました。</p>
----------------	--

評価 (Check)

本市施策推進に関する指標		目標・実績	R3年度 (現状値)	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	単位
1	各種講座受講者数	目標値	2,113	2,500	3,850	3,900	3,950	人
	説明 緑のボランティア育成と活動支援を目的に協会が主催する各種講座受講者数	実績値		2,839	4,284			
2	緑の人材バンク新規登録者数	目標値	13	13	16	17	18	人
	説明 イベントの講師、花と緑の相談員、出前講座、活動支援等に活用する人材バンクの新規登録者数※R4個別設定値:12(現状値の95%)	実績値		27	24			
3	緑の活動団体新規登録数	目標値	6	12	13	14	15	団体
	説明 各地域で里山整備や花壇・プランター等を活用して花と緑のボランティア活動を行う団体の新規登録数	実績値		14	8			

指標1 に対する達成度	a	a. 実績値が目標値以上 b. 実績値が現状値(個別設定値)以上～目標値未満 c. 実績値が目標値の60%以上～現状値(個別設定値)未満 d. 実績値が目標値の60%未満 ※個別設定値を設定している場合は指標の説明欄に記載
指標2 に対する達成度	a	
指標3 に対する達成度	b	

法人コメント(指標に対する達成度やその他の成果等について)

指標1については、各種講座の講座内容の充実・運営の工夫を図るとともに、安全対策を講じながら取組を進めました。また、協会が開催する講座の全てでWEB申込みが可能となり、若い世代や多くの方々に利用しやすい環境を提供することができ、コロナの心配もなくなり各種講座の受講がしやすくなり、学校関係の出前講座や活動支援ができるようになったことから、目標値を達成することができました。

指標2については、各種講座の中で緑のボランティアの必要性を周知するなど、人材バンク新規登録への働きかけに取り組んだことにより、目標値を達成することができました。

指標3については、各区で開催される合同連絡会にも積極的に参加し、緑の活動団体の新規登録への働きかけを行いました。周知が浸透しきれず、目標値を達成することができませんでした。

本市による評価	達成状況	区分	区分選択の理由
		A. 目標を達成した B. ほぼ目標を達成した C. 目標未達成のものがあるが一定の成果があった D. 現状を下回るものが多くあった E. 現状を大幅に下回った	B

行政サービスコスト		目標・実績	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	単位
1	事業別の行政サービスコスト	目標値		49,230 (70,900)	51,857 (71,000)	51,857 (71,000)	51,857 (71,000)	千円
	説明 本市財政支出 (直接事業費)	実績値	51,290 (67,850)	51,857 (65,655)	52,784 (68,213)			

行政サービスコスト
に対する達成度

2)

- 1). 実績値が目標値の100%未満
- 2). 実績値が目標値の100%以上～110%未満
- 3). 実績値が目標値の110%以上～120%未満
- 4). 実績値が目標値の120%以上

法人コメント(行政サービスコストに対する達成度について)

今年度開催した各種講座は、内容の充実・運営の工夫を図り、安全対策を講じることで、多くの方々に受講していただきました。また、協会が開催している講座の全てで二次元コードによるWEB申込みが可能となり、利用しやすい環境を提供することができました。コロナ禍も過ぎ、講座開催数も増え、講座等に係る諸謝金など人件費等の諸経費が昨年度に比べ高騰するなか、職員でできることは職員で行うなど、経費削減に取り組ましましたが、目標値の範囲を超えました。

本市による評価

費用対効果
(「達成状況」と「行政サービスコストに対する達成度」等を踏まえ評価)

- | 区分 | 区分選択の理由 |
|-----|--|
| (2) | 行政サービスコストは目標値を超え、指標3についても目標値を達成できなかったが、指標1、2は目標値を達成し、緑化意識向上に向けた活動や若い世代や多くの方々が利用しやすい環境を整備することで、多様な主体の参加による取組を踏まえた地域コミュニティの形成を進めたため。 |

(2)

改善 (Action)

実施結果 (Do) や評価 (Check) を踏まえた今後の取組の方向性	方向性区分	方向性の具体的内容
	I. 現状のまま取組を継続 II. 目標の見直し又は取組の改善を行い、取組を継続 III. 状況の変化により取組を中止	II

法人名(団体名)	公益財団法人 川崎市公園緑地協会	所管課	建設緑政局緑政部みどりの管理課
----------	------------------	-----	-----------------

本市施策推進に向けた事業取組③(令和5(2023)年度)

事業名	公園緑地の運営及び健全な利用促進に関する事業
-----	------------------------

計 画 (Plan)

現状	収益事業(売店・自動販売機・駐車場)を財源として、独自に展開している各種イベント(自主事業)を実施し、公園緑地及び運動施設並びに生田緑地ばら苑等の利用促進と緑化意識向上に努めています。
行動計画	収益事業の収益を財源として花と緑を中心とした各種イベントを実施し参加者満足度を高め、公園緑地の利用促進と緑化意識の向上と推進、拡充を図ります。また、開催するイベント等の内容を充実させ、公園緑地、運動施設、ばら苑の魅力を知りし利用者の拡充に努めます。
具体的な取組内容	<p>【指標1関連】 令和5年度から始まる等々力緑地再編整備事業による事業移行の影響を勘案し、自主事業の見直しと既存事業の充実を図ります。 協会事務所がある中原区の子ども会連合会をはじめ地域の関係団体と連携し、イベント(風揚げ大会・花壇の花植え)を開催するとともに生田緑地ばら苑では、ばらの講習会・ばらの写真展・野外ライブコンサート・ボランティアガイドを実施し、参加者満足度向上に努めます。また、令和6年10月から開催される「全国都市緑化かわさきフェア」の会場となるばら苑では、各種イベント(ばらの講習会・ばらの写真展・野外ライブコンサート・ボランティアガイド)を実施するとともに、フェア開催に向けて、試行的な取組も実施し、顧客満足度調査を併せて行いながら企画運営の検討を進めます。</p> <p>【指標2関連】 生田緑地ばら苑では、ばらの講習会、ばらの写真展、野外ライブコンサート、ボランティアガイドを実施し、春・秋の一般開放の来苑者数の拡充に努めます。また、収益事業では、春・秋開苑期間中にキッチンカーを導入し、お客様のニーズに応える新たな試みを行い、収益確保に努めるとともにフェアに向けての多彩な企画運営を検討します。</p>

実施結果 (Do)

本市施策推進に向けた活動実績	<p>【指標1関連】 令和5年度は、等々力緑地再編整備事業の影響を勘案し、自主事業の見直しを行い、新春風揚げ大会、ばら苑開苑中のばらの講習会、ばらの写真展、野外ライブコンサート、ボランティアガイドなどの既存事業を中心に充実を図り、満足度向上に努めました。 令和2年度から4年度までの期間はコロナ禍の影響で、春・秋のばら苑開苑期間中に自主事業としての各種イベントを一部開催することができませんでしたが、令和5年度は全ての自主事業を行うことができました。特に4年ぶりに実施したばら苑ボランティアガイドでは、ボランティアが各自、ばらの説明の仕方など工夫を凝らし楽しみながらガイドを行いました。また、令和6年10月から開催される「全国都市緑化かわさきフェア」に向けては、会場となるばら苑の新たな収益事業の取組としてキッチンカーを試験的に導入しましたが、その他各種イベント開催案については所管局との調整が遅れたため、令和6年度春の一般開放時に試行することとし、併せて顧客満足度調査も令和6年度春の一般開催時に実施することとしました。</p> <p>【指標2関連】 生田緑地ばら苑では、ばらの講習会、ばらの写真展、野外ライブコンサート、ボランティアガイドを全て実施することができました。特に、野外ライブコンサートでは、クラシックの合唱を初めて取り入れ、昨年好評を得たバレエも継続して行い、音楽と芸術を融合した取組を実施しました。ばらの講習会も春・秋両開催することができました。また、ばら苑ボランティアガイドも4年ぶりに実施することができ、参加者の方々には、大変喜んでいただきました。また、令和6年10月から開催される「全国都市緑化かわさきフェア」に向けて、春・秋開苑時にキッチンカー(飲料水・珈琲・軽食等)を試験的に導入し、来苑者サービス向上に繋げました。 酷暑の影響等で来苑者数は伸び悩みましたが、上述のとおり全ての自主事業を実施することで、来苑者の確保に努めました。</p>
----------------	---

評価 (Check)

本市施策推進に関する指標		目標・実績	R3年度 (現状値)	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	単位
1	各種イベント等参加者満足度	目標値	94	95	96	97	98	%
	説明 凧揚げ大会、ばら苑講習会、花と緑の講習会などの参加者満足度	実績値		98	99			
2	ばら苑来苑者数	目標値	68,145	74,500	81,000	81,500	82,000	人
	説明 生田緑地ばら苑における春・秋の一般開放の来苑者数	実績値		76,768	68,824			

指標1 に対する達成度	a	a. 実績値が目標値以上 b. 実績値が現状値(個別設定値)以上～目標値未満 c. 実績値が目標値の60%以上～現状値(個別設定値)未満 d. 実績値が目標値の60%未満 ※個別設定値を設定している場合は指標の説明欄に記載
指標2 に対する達成度	b	

法人コメント(指標に対する達成度やその他の成果等について)

指標1については、等々力緑地再編整備事業の影響で自主事業の見直しを図り、既存事業の充実を中心に実施し、ばら苑では、4年ぶりに実施したボランティアガイドを含め、野外ライブコンサート、ばらの講習会など全ての自主事業を開催し、好評をいただき参加者の満足度向上に繋がりを、目標値を達成することができました。また、新春凧揚げ大会では、若い世代のご家族、参加者にも満足度調査を行い、河川敷で多くの人々と凧揚げを通じて交流ができて良かったというご意見をいただき今後の取組の参考になりました。

指標2については、夏前からの酷暑の影響等もあり、ばらの開花や咲き具合が不安定で、秋の開花が遅れるなど春・秋の来苑者は、減少となり、目標値を達成することができませんでした。令和6年10月から開催される「全国都市緑化かわさきフェア」に向けて、ばら苑の来苑者増を図る新たな自主事業の取組について検討を開始しました。

本市による評価	達成状況	区分	区分選択の理由
		A. 目標を達成した B. ほぼ目標を達成した C. 目標未達成のものがあるが一定の成果があった D. 現状を下回るものが多くあった E. 現状を大幅に下回った	B

行政サービスコスト		目標・実績	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	単位
1	事業別の行政サービスコスト	目標値	194,596 (187,525)	196,827 (200,246)	72,080 (75,080)	72,080 (75,080)	72,080 (75,080)	千円
	説明 本市財政支出(直接事業費)	実績値		202,777 (190,091)	80,055 (98,038)			

行政サービスコスト に対する達成度	3)	1). 実績値が目標値の100%未満 2). 実績値が目標値の100%以上～110%未満 3). 実績値が目標値の110%以上～120%未満 4). 実績値が目標値の120%以上
----------------------	----	--

法人コメント(行政サービスコストに対する達成度について)

令和5年度は、自主事業の見直しを行った上で各種イベントを実施するとともに、業務の効率化を図り経費削減に努めました。また、ばら苑では、野外ライブコンサート、ばらの講習会、ボランティアガイドなどを全て実施し、好評をいただき参加者の満足度向上に繋がりました。しかし、毎年春・秋開苑に向けた経費が高騰し、特に警備委託に係る人件費が増加し、目標値の範囲を超えました。

本市による評価	費用対効果 (「達成状況」と「行政サービスコスト」に対する達成度)等を踏まえ評価)	区分	区分選択の理由
		(1). 十分である (2). 概ね十分である (3). やや不十分である (4). 不十分である	(2)

改善 (Action)

実施結果(Do)や評価(Check)を踏まえた今後の取組の方向性	方向性区分	方向性の具体的内容
	I. 現状のまま取組を継続 II. 目標の見直し又は取組の改善を行い、取組を継続 III. 状況の変化により取組を中止	II

法人名(団体名)	公益財団法人 川崎市公園緑地協会	所管課	建設緑政局緑政部みどりの管理課
----------	------------------	-----	-----------------

2. 経営健全化に向けた取組①(令和5(2023)年度)

項目名	運営の自立性の向上
計画(Plan)	
現状	コロナ禍となる前では、経常収支比率は100%を超え、正味財産額も堅調に推移しておりましたが、令和2年度においては、緊急事態宣言下におけるイベントの中止や駐車場の一時閉鎖に伴い駐車場等事業収益が令和元年度と比較し約5千万円の減収となりました。また、令和5年度から等々力緑地再編整備事業の影響により、駐車場等事業収益の大幅な減収が見込まれるなか、市財政支出割合が高くなる傾向にならないように、新たに収益を確保できる事業を推進し、川崎市からの財政支出割合を低減するように努めています。
行動計画	今後4ヶ年における安定した協会事業運営を行うために、目標値の逓減抑制に向けて、自販機の増設など収益事業による自己収入の確保に努めるとともに、等々力陸上競技場を主な業務として担当している職員の人員配置の整理など経費削減策についても継続して検討を行い、公益事業を行える組織体制の構築と経営健全化に伴う財政構造の確立に努めます。
具体的な取組内容	<p>【指標1関連】</p> <p>令和5年度から始まる等々力緑地再編整備事業に伴う事業移行の影響により公益目的事業及び収益事業の大幅な減収が見込まれる中、事業の見直しによる適正な人員配置計画を遂行し、経費削減に努めます。収益事業では、所管局と情報共有し、各区道路公園センターの協力を得ながら、自動販売機の新規設置を図り、収益確保に努めます。また、多摩川緑地駐車場の運営の見直しによる経営健全化を図ります。また、公益目的事業では、令和6年度募集が予定されている指定管理事業への応募の準備を開始し、経営の健全化と収支バランスが図られるよう努めます。</p> <p>【指標2関連】</p> <p>収益事業の見直しと効果的な運営による収支バランスが図られるよう努めるとともに、既存事業の経費見直しにより、一般正味財産の減少額を最低限に抑えるように努めます。また、来年度に向けて指定管理事業への応募準備、フェア開催に向けた準備、運営等に見合った適正な人員配置による事業計画を策定し、経営の安定化と持続的な公益財団法人としての運営に向けた取組を推進し、将来に向けた正味財産の拡充に努めます。</p>

実施結果(Do)

経営健全化に向けた活動実績	<p>【指標1関連】【指標2関連】</p> <p>等々力緑地再編整備事業の開始に伴い、等々力緑地における運動施設及び橘公園事務所等の管理運営業務からの撤退を考慮した組織再編、人員配置転換を行うとともに、既存事業の見直しによる経費削減に努めました。また、収益事業では、所管局と情報共有し、各区道路公園センターの協力を得ながら、自動販売機については、10台新規設置を行い、収益確保に努めました。なお、多摩川緑地駐車場の運営の見直しについては、所管局と引き続き協議中となっておりますが、令和6年度における2か所の指定管理事業への応募準備に取り掛かり、持続可能な事業運営に向けた検討を行いました。</p>
---------------	--

評価 (Check)

経営健全化に関する指標		目標・実績	R3年度 (現状値)	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	単位
1	経常収支比率	目標値	106.4	105.7	84.2	84.3	84.3	%
	説明	事業活動の結果である経常収益とそれに費やした経常費用の割合		実績値	111.0	85.2		
2	正味財産額の推移	目標値	562,932	561,502	517,208	473,099	428,925	千円
	説明	出捐者から受け入れた指定正味財産額と本業から得られた過年度経常収支差額の合計額		実績値	612,768	569,325		

指標1 に対する達成度	a	a. 実績値が目標値以上 b. 実績値が現状値(個別設定値)以上～目標値未満 c. 実績値が目標値の60%以上～現状値(個別設定値)未満 d. 実績値が目標値の60%未満 ※個別設定値を設定している場合は指標の説明欄に記載
指標2 に対する達成度	a	

法人コメント(指標に対する達成度やその他の成果等について)

指標1については、令和5年度は、等々力緑地再編整備事業と長い期間の酷暑等の影響に伴う駐車場利用台数の減少による収益の減少等がありました。組織再編や適正な人員配置等に努め、経費削減を図ることにより、目標値こそ上回りましたが、経常収支比率は100を下回っているため、今後も収益確保と経費削減に取り組んでまいります。

指標2については、一般正味財産の減少額を最小限にとどめ、目標を達成することができました。

	達成状況	区分	区分選択の理由
		A. 目標を達成した B. ほぼ目標を達成した C. 目標未達成のものがあるが一定の成果があった D. 現状を下回るものが多くあった E. 現状を大幅に下回った	A

改善 (Action)

実施結果(Do)や評価(Check)を踏まえた今後の取組の方向性	方向性区分	方向性の具体的内容
	I. 現状のまま取組を継続 II. 目標の見直し又は取組の改善を行い、取組を継続 III. 状況の変化により取組を中止	II

法人名(団体名)	公益財団法人 川崎市公園緑地協会	所管課	建設緑政局緑政部みどりの管理課
----------	------------------	-----	-----------------

3. 業務・組織に関する取組①(令和5(2023)年度)

項目名	効率的・安定的な執行体制の構築
計 画 (Plan)	
現状	令和3年度は常勤役員2名及び常勤職員19名の計21名で事業運営業務を行っています。
行動計画	公益的・社会的な事業の推進をするにあたり、緑のボランティアの育成と支援を行う活動拠点を中心とした事業運営を実施します。その上で等々力緑地再編整備事業の実施に伴い、等々力陸上競技場を主な業務として担当している常勤職員について、退職者の不補充により少なくとも3名の削減をするなどの適正な人員配置計画の策定を行い、協会組織のスリム化を図るとともに、当該計画に基づき、引き続き、効率的かつ安定的な業務遂行に努めます。
具体的な取組内容	令和5年度から始まる等々力緑地再編整備事業に伴う事業移行の影響に伴い、所管局と情報共有し、協会の経営の健全化と組織体制を検証し、事業の効率化に取組み、持続可能な体制と人員配置に努めます。また、令和6年度に向けて指定管理事業への応募に伴う事業計画及び予算案の策定並びに適正な人員配置計画の検討に取り組めます。

実施結果 (Do)

業務・組織に関する活動実績	<p>【指標1関連】</p> <p>令和5年度から始まった等々力緑地再編整備事業の影響を考慮した組織再編と人員配置計画に基づき、昨年度から2名減の17名体制で事業運営を行いました。また、令和6年度における2か所の指定管理事業への応募に向けての準備を開始するとともにそれに対応した緑の専門職としてプロバ職員2名と嘱託職員1名の採用計画と予算案を策定しました(令和5・6年度に2名のプロバ職員の退職に伴う補充)。また、令和7年度以降の協会運営について、所管局と協議を重ね、新たな事業運営と組織再編に向けた取組を開始しました。</p>
---------------	--

評価 (Check)

業務・組織に関する指標		目標・実績	R3年度 (現状値)	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	単位
1	常勤役職員の人数	目標値	21	20	17	17	17	人
	説明 年度当初の常勤の役員及び職員 の人数	実績値		19	17			

指標1 に対する達成度	a	a. 実績値が目標値以上 b. 実績値が現状値(個別設定値)以上～目標値未満 c. 実績値が目標値の60%以上～現状値(個別設定値)未満 d. 実績値が目標値の60%未満 ※個別設定値を設定している場合は指標の説明欄に記載
----------------	---	---

法人コメント(指標に対する達成度やその他の成果等について)

令和5年度から始まった等々力緑地再編整備事業の影響に合わせた組織再編と人員配置を行うことができました。また、今後の持続的な協会運営を構築するために、新たな事業展開として積極的に指定管理事業への参入等を推進し、組織再編に向けた取組を開始しました。

本市による評価	達成状況	区分	区分選択の理由
		A. 目標を達成した B. ほぼ目標を達成した C. 目標未達成のものがあるが一定の成果があった D. 現状を下回るものが多くあった E. 現状を大幅に下回った	A 等々力緑地再編整備事業の影響に合わせた組織再編と人員配置を行った結果、目標人数内での人員配置となり、目標を達成したため。

改善 (Action)

実施結果(Do)や評価(Check)を踏まえた今後の取組の方向性	方向性区分		方向性の具体的内容
	I. 現状のまま取組を継続 II. 目標の見直し又は取組の改善を行い、取組を継続 III. 状況の変化により取組を中止	II	令和6年度に2か所の指定管理事業への応募を実施します。また、令和7年度以降の事業の拡充に伴う組織再編と人員配置計画の必要性から目標値の設定変更が必要であると考えています。

法人(団体名)	公益財団法人 川崎市公園緑地協会	所管課	建設緑政局緑政部みどりの管理課
---------	------------------	-----	-----------------

●法人情報

(1)財務状況

収支及び財産の状況(単位:千円)		令和3(2021)年度	令和4(2022)年度	令和5(2023)年度	令和6(2024)年度	令和7(2025)年度
正味財産増減計算書	(一般正味財産増減の部)					
	経常収益	473,597	504,451	248,819		
	経常費用(事業費)	425,916	434,498	272,352		
	経常費用(管理費)	19,383	19,897	19,740		
	うち減価償却費	2,599	3,920	1,671		
	当期経常増減額	28,298	50,056	△43,273		
	経常外収益					
	経常外費用					
	税引前当期一般正味財産増減額	28,298	50,056	△43,273		
	当期一般正味財産増減額	28,078	49,836	△43,443		
(指定正味財産増減の部)						
当期指定正味財産増減額						
正味財産期末残高	562,932	612,768	569,325			
貸借対照表	総資産	693,601	808,270	669,875		
	流動資産	211,897	256,505	125,182		
	固定資産	481,705	551,765	544,693		
	総負債	130,670	195,502	100,550		
	流動負債	63,551	118,115	29,919		
	固定負債	67,118	77,386	70,630		
	正味財産	562,932	612,768	569,325		
	指定正味財産	131,000	131,000	131,000		
一般正味財産	431,932	481,768	438,325			
主たる勘定科目の状況(単位:千円)		令和3(2021)年度	令和4(2022)年度	令和5(2023)年度	令和6(2024)年度	令和7(2025)年度
経常収益	駐車場等事業収益	174,274	190,828	55,990		
経常費用	人件費(事業費+管理費)	133,396	132,447	98,222		
総資産	特定資産	187,118	254,320	248,919		
総負債	有利子負債(借入金+社債等)	2,216	5,423	4,067		
本市の財政支出等(単位:千円)		令和3(2021)年度	令和4(2022)年度	令和5(2023)年度	令和6(2024)年度	令和7(2025)年度
補助金		99,955	104,586	103,812		
負担金						
委託料		194,596	202,777	80,054		
指定管理料						
貸付金(年度末残高)						
損失補償・債務保証付債務(年度末残高)						
出捐金(年度末状況)		131,000	131,000	131,000		
(市出捐率)		100.0%	100.0%	100.0%		
財務に関する指標		令和3(2021)年度	令和4(2022)年度	令和5(2023)年度	令和6(2024)年度	令和7(2025)年度
流動比率(流動資産/流動負債)		333.4%	217.2%	418.4%		
有利子負債比率(有利子負債/正味財産)		0.4%	0.9%	0.7%		
経常収支比率(経常収益/経常費用)		106.4%	111.0%	85.2%		
正味財産比率(正味財産/総資産)		81.2%	75.8%	85.0%		
経常費用に占める市財政支出割合 (補助金+負担金+委託料+指定管理料)/経常費用)		66.1%	67.6%	62.9%		
経常収益に占める市財政支出割合 (補助金+負担金+委託料+指定管理料)/経常収益)		62.2%	60.9%	73.9%		
法人コメント		本市コメント				
現状認識	今後の取組の方向性	本市が今後法人に期待することなど				
令和5年度の経常収益は、等々力再編整備事業の影響や夏季の長引く酷暑等で王禅寺、多摩川緑地、ばら苑臨時駐車場の利用台数が減少したことにより、受託事業と駐車場等収益事業を合わせて対前年度比で約2億5,500万円の減収となりました。 経常費用についても、等々力緑地からの事業撤退等の影響により、人件費、賃借料、委託料を中心に約1億6,200万円の減少となりました。その結果、当期一般正味財産増減額は、約4,340万円の赤字となりました。	令和6年10月から開催される「全国都市緑化かわさきフェア」では、協会の持つ知識や地域との繋がりを活かして、緑のボランティアや市内の小中学生と連携した市民協働花育事業や、フェア会場のひとつである生田緑地ばら苑でのばらに関する講習会やイベント等を実施予定で、さらなる市内の緑化推進と普及啓発に努めます。 令和5年度からは大幅な赤字を計上していることから、今後の協会のあり方と公益目的事業の見直しについて、継続して市と協議するとともに、自動販売機の増設やばら苑におけるキッチンカーの台数追加など収益事業の拡充に努めてまいります。 また、令和6年度の指定管理者募集に向けて応募準備と組織再編に取組みます。	緑化フェアについては、公園緑地協会が持つ各種ボランティアとのネットワークを活かして、市民総参加型の緑化フェアの実現に向けて、新たな「協働の取組」の担い手確保のきっかけになるような魅力ある事業の実施を期待します。 今後の緑行政においては、緑化やみどりの保全、利活用について、市民をはじめとした多様な主体との協働推進がますます重要になってくるため、公園緑地協会には、個々で活躍しているそれら多様な主体を繋ぎ、まとめ、育てる、中間支援組織としての役割が求められます。これらの新しい事業に対応するため、公園緑地協会には、体制の見直しや、意識の変革など、抜本的な改革を期待します。 一方で、令和5年度からは大幅な赤字を計上していることから、令和6年度の指定管理者募集に向けて万全に準備を進めるなど、持続的な運営に繋がる取組を期待するとともに、経営基盤の安定のために市としても適正に管理監督を継続してまいります。				

(2) 役員・職員の状況(令和6年7月1日現在)

	常勤(人)			非常勤(人)		
	合計	(うち市派遣)	(うち市OB)	合計	(うち市在職)	(うち市OB)
役員	3	0	2	6	0	0
職員	15	0	2	0	0	0

【備考】

●総役員に占める本市職員及び退職職員の割合が3分の1を超過していることについての法人の見解

・理由

・今後の方向性